

# 中野市の市名変更に関する調査報告書

令和2年 10月7日

中野市

## 1. 「中野市」の名称決定について

「中野市」という名称は、平成 17 年 4 月 1 日に旧中野市と旧豊田村との合併にあたり、平成 16 年 6 月 28 日に設立した「中野市・豊田村合併協議会」において、合併に関するあらゆる事項の協議、検討を進める中で、新市の名称の募集を行い、応募総数約 2,000 件、名称総数約 600 点の応募の中から、新市の名称候補として「中野市」「信州中野市」「ふるさと市」の 3 つを選定しました。平成 16 年 7 月から 8 月までの間、両市村の 16 歳以上の全住民を対象にアンケートを実施し、同年 8 月 30 日に開催された第 5 回合併協議会において、有効数の一番多い「中野市」が新市の名称として決定されました。

### <合併の経過>

平成 14 年 11 月 30 日	中野市・山ノ内町・豊田村任意合併協議会 設立
平成 15 年 11 月 18 日	中野市・山ノ内町・豊田村任意合併協議会 解散（山ノ内町離脱）
〃	中野市・豊田村任意合併協議会 設立
平成 16 年 6 月 28 日	中野市・豊田村任意合併協議会 解散
〃	中野市・豊田村合併協議会 設立
平成 17 年 3 月 31 日	中野市・豊田村廃止
平成 17 年 4 月 1 日	新市「中野市」誕生

## 2. 市名変更をめぐる意見

合併前から市の名称変更について市議会で議論があったほか、知名度が低いためビジネスなどにおいて、市の位置や場所が特定しづらく説明が煩わしいとの理由から、市の名称を「信州中野市」に変更を望む声が上がっています。一方、歴史的、文化的な要素や中野市という地域に愛着を持ってくらしている方がいます。

## 3. これまでに実施した調査の経過

これまでに市の名称について市民アンケートによる意識調査、市民参加によるシンポジウム、将来のまちづくりを担う高校生のグループインタビュー、市内在住の 30 代の若者意見交換会を実施し、市の知名度向上を図るために市名変更することをどう思っているのかご意見をお聞きしました。

また、これらの調査では、市名を変更した場合に想定される影響について、できる限り客観性のあるデータや根拠が必要なことから市名変更による経済波及効果を調査し、市内経済にどのように影響していくかまとめました。

### 「市名変更に関する調査」

- (1) 市民アンケート調査
- (2) 中野市の市名・通称名を考えるシンポジウム～市の魅力度と知名度向上を探る～
- (3) 中野市の魅力発信と知名度向上を考える高校生グループインタビュー
- (4) 中野市の市名・通称名を考える若者意見交換会
- (5) 中野市市名変更に伴う影響分析調査（経済波及効果）

※調査については、専門的知識をもった民間事業者への業務委託により実施しており、結果や考察、経済波及効果などは客観的な調査結果です。

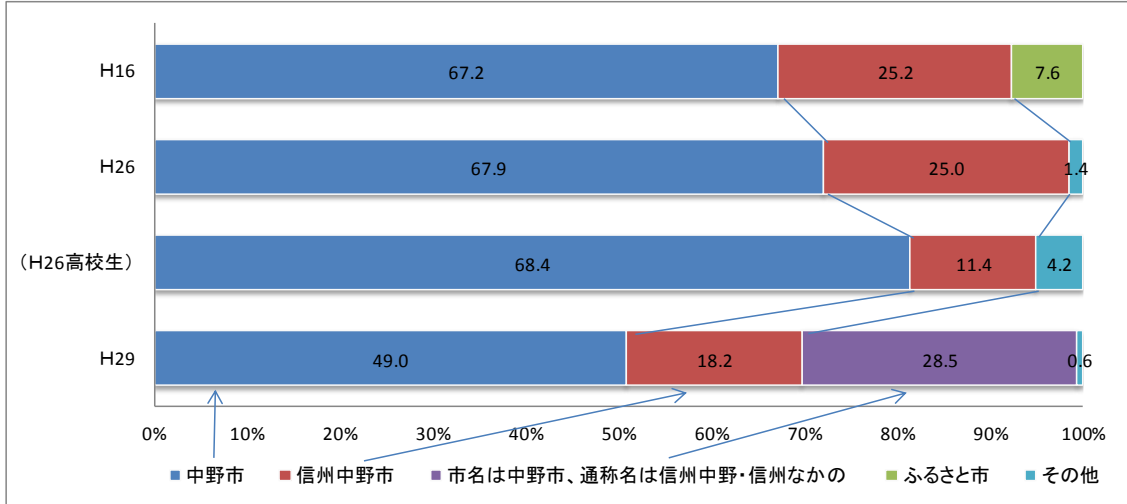
## 4. 調査結果の概要

### (1) 市民アンケート調査

平成 17 年の合併時では「中野市」を市名とする投票が 67.2%、平成 26 年の市民アンケートでは、67.9%が「中野市」であった。また、高校生を対象とした結果では、「信州中野市」が

全体の1割と年代別にみた意識差でも、若年層の方が市名変更を望んでいない傾向にある。

平成29年では「市の名称は中野市、通称名(愛称)は信州中野・信州なかの」が「信州中野市」を上回り、「中野市」と合わせると77.5%と約8割が現状のままを望んでいる。



(%)

	H29	(H26高校生)	H26	H16
中野市	49.0	68.4	67.9	67.2
信州中野市	18.2	11.4	25.0	25.2
ふるさと市	—	—	—	7.6
市名は中野市、通称名は信州中野・信州なかの	28.5	—	—	—
その他	0.6	4.2	1.4	—

(無回答は含めないため合計は100%にならない)

## (2) 中野市の市名・通称名を考えるシンポジウム～市の魅力度と地名度向上を探る～

■ 監修	立正大学文学部 浅岡隆裕 准教授
■ 開催日	平成30年3月27日(火) 午後6時～午後7時50分
■ 会場	中野市役所本庁舎 会議室41～43
■ 基調講演	「地域の魅力度と知名度向上を考えるための論点」
■ パネルディスカッション	「中野市の市名・通称名を考える～市の魅力度と知名度向上を探る～」 コーディネーター1名、パネリスト3名

市内・市外に居住されているパネリスト3名による、様々な視点から市の魅力度、知名度の向上につながるPR方法・ブランド活用について、シティプロモーションの1つとして「中野市の市名・通称名」について、ご意見をお聞きしました。

### 【意見のまとめ】

#### パネリストの意見

- ・なぜ、信州をつけないのか。中野といえば東京の中野であり太刀打ちできない。
- ・県外への売り込みには、信州中野なら分かり易く、PRしやすい。県内の他市町村で信州を使用されると二番煎じとなってしまう難しい。
- ・信州中野という通称名があるので、まずは、その地域ブランドを育てていくことに魅力と新鮮さを感じている。

#### コーディネーターによる整理

- ・市名変更が知名度向上につながるかは、不明確である。市名変更するにしても、しないとしても、地域の魅力を発信していく必要はある。
- ・信州中野市に市名変更するメリットは何か。メリット>デメリットとなれば実施すべき。

どのような効果が期待できるのか。果たして達成可能なのか、などといった根拠となるデータを基に検討すべきである。決断はすばやくした方がいいが、決断をするためには材料を集めて、熟議を重ねた上での選択をするべき。

**【調査結果】**

資料2「中野市の市名・通称名を考えるシンポジウム～市の魅力度と知名度向上を探る～  
パネルディスカッション発言録」  
「シンポジウム来場者アンケート結果」

**(3) 中野市の魅力発信と知名度向上を考える高校生グループインタビュー**

■ 監修	立正大学文学部 浅岡隆裕 准教授
■ 開催日	平成 31 年 2 月 7 日 (木) 午後 1 時～午後 5 時
■ 会場	中野市役所本庁舎 会議室 41
■ 調査手法	フォーカスグループインタビュー形式 中野西高等学校生徒 7 名、中野立志館高等学校生徒 5 名
■ 留意事項	ここで得られた結果をもって、中野市の高校生一般の意見・態度を明らかにすることができるわけではないことに留意。それでも高校生といった特定の社会的属性グループの中での、典型的なパターンを把握できている。

「中野市の魅力発信と知名度向上を考える」をテーマに、中野市に対してどのような印象を抱き、郷土のよさについてどのように考えているのか。また、今後、中野市がどのようになってほしいのか、ひいては市名変更についてどう思っているのか、将来のまちづくりを担う高校生に意見やアイデアをお聞きした。

**【調査結果】**

資料3「中野市の魅力発信と知名度向上を考える高校生グループインタビュー結果の詳細」

**(4) 中野市の市名・通称名を考える若者意見交換会**

■ 監修	立正大学文学部 浅岡隆裕 准教授
■ 開催日	令和 2 年 1 月 31 日 (金) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分
■ 会場	中野市役所本庁舎 会議室 43
■ 調査手法	フォーカスグループインタビュー形式 中野市在住の 30 代の登録公募委員候補者 5 名
■ 留意事項	ここで得られた結果をもって、中野市民の一般の意見・態度を明らかにすることができるわけではないことに留意。それでも特定の社会的属性では、どういった意見・態度が見られ、典型的なパターンを把握できている。

「市名変更についてあなたはどうか」をテーマに、市名を変更した場合に想定される影響について可能性や抽象論でなく、経済波及効果などの客観的な資料により、市の知名度向上に市名変更について若者がどう思っているのか意見をお聞きした。

**【調査結果】**

資料 4「中野市の市名・通称名を考える若者意見交換会結果の詳細」

**【(3) 高校生グループインタビュー・(4) 若者意見交換会の結果・考察】**

**① 中野市に対する認識**

結果：中野市の住みやすさは満足されており、不満はさほど顕在化していない。

考察：高校生、30 代若者ともに、中野市の住みやすさは評価されており、住み慣れた土地への愛着度は大方しめられている。しかし主に観光の目玉や娯楽施設などといった地域資源の乏しさから中野市を自慢するといった積極的な捉え方がされておらず、高校生からは市民としての誇りやプライドを持つには至っていない様子が伺えた。

中野市という市名そのものにマイナスイメージが持たれているわけではない。知名度の低さゆえに市外の人に対しては市の紹介をすることや東京都中野区と混同されるといった煩わしさ、不便さはある程度感じてはいるものの、さほどストレスにはなっていない。

② 市名変更の議論があることの認知

結果：30代若者意見交換会の参加者が、市名変更についての議論があることを知らなかった。  
 考察：市名変更に向けての議題があることが共有されておらず、議論が進んでいない状況が認められる。中野市を長く使い続けているために慣れや親しみが有り、市名変更の議論がなされていることを聞くまでは、それを変更した方がよいといった感覚は生じないと思われる。

③ 信州を付けることの意味

結果：地域のまとまり呼称として、「信州」よりも「長野県」の方に共感されている。信州という県単位の広域的な名称を市単位の名称とすることに違和感を感じている。

考察：高校生、30代という若者世代では、長野県という括りの方が定着しており、また、身近な存在として親しみをもって捉えられている。

④ 市名変更することの効果についての認識

結果：中野市の魅力そのものがアップしなければ、市名変更によって、中野市の知名度やブランドイメージ向上、来訪促進などにつながるものでないのでは、との見方が示された。

考察：市名変更だけでは市外の中野市に対する興味喚起にはつながらないということが認識されている。

⑤ 市名変更に伴い発生する負担感

結果：「市名変更が多額の税金を使っていいのか」という意見が強く出された。約1億2千万円という経費は、それに見合うリターンが得られないのではという見方がされている。

考察：市名を変えただけで効果が得られるのか、といった懐疑的な見方が強いために、こうした税金の無駄遣いといった批判が出やすいと思われる。

通称名としての信州中野を展開することは、高校生、30代若者では一定の支持を集めている。わざわざ費用をかけて市名を変更せずとも、信州中野ブランドの打ち出しを強化することでいいのではないかと考えられている。

【市名変更に伴う市の経費の推計（試算）】 市政策研究所調査 令和2年1月29日現在

区分	金額(千円)	内訳(積算等)
公共施設銘板等改修費	30,900	1箇所あたり15万円 206箇所
道路標識等改修費	38,988	1箇所あたり34.2万円 114箇所
コンピューターシステム改修費	22,887	各システムの見積額
公印等作成経費	2,460	1個あたり2万円 123個
公用車等表示改修費	2,330	公用車等1台8千円130台、特殊車両1台1万円129台
戸籍・住民基本台帳経費	3,520	郵便代+封筒代1通あたり@110円 1.6万人×2回
校旗等作成経費	14,400	1枚あたり120万円 12旗
その他経費	2,009	各印刷物等の見積額
合計	117,494	

※人件費については見込んでいない。

⑥ 若者意見交換会における資料提示後の市名変更への意見変容

結果：資料提示前と比べ「どちらでもいい」から「変えない方がよい」へ変化した一番の理由と

して、市名変更にかかるコストを考えるとデメリットが大きいと感じるとの意見がある。  
 考察：経済波及効果が誰にとってのメリットなのか、自分に結果的にどのように関わってくるのかが理解できていない様子があり、どこまで知名度が広がるのかわからないことへ、コストを懸けてまで市名変更するなら「変えないほうが良い」と気持ちの変化が表れている。

【市名を信州中野市へ変更するメリット・デメリットの整理】

	市民の視点	事業者の視点	行政の視点
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信州は全国で広く通じる（中野市では通じないことも多いが、信州中野市は長野県にある市と伝わる）</li> <li>・東京都の中野区と区別しやすくなる（中野市と中野区がまぎらわしいとの声がある）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特産物を信州中野産で今後も積極的に販売することができる（産地表記、駅名、インターチェンジ名、市名の表記が統一され、物産を効果的にPRすることができる）</li> <li>・長野県にある市と知られ、興味関心を持ち、訪れる人の増加が見込まれる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理的にイメージされやすい</li> <li>・信州なかのブランドの知名度が向上する可能性がある（信州中野を多くの人に知られるPR効果が期待できる）</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中野市に愛着を感じている</li> <li>・長い市名は書くのに面倒、負担感がある</li> <li>・住所変更などの手続きが必要となり、経費や労力がかかる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住所変更などの手続きが必要となり、経費や労力がかかる</li> <li>・特産物販売ではない事業者は負担に感じる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・約1.2億円の経費がかかる（施設銘板、道路標識、コンピューターシステム、公印、公用車等表示、戸籍・住民基本台帳、校旗、その他）</li> <li>・新市名の定着に時間と労力がかかる</li> </ul>

(5) 【中野市市名変更に伴う影響分析調査（経済波及効果）】

■ 調査企業	株式会社共立プランニング
■ 調査方法	インターネットアンケート
■ 対象者	首都圏1都3県（東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県）居住者
■ サンプル数	中野市訪問経験者 200 サンプル／未経験者 800 サンプル、合計 1000 サンプル （中野市訪問経験者 20代～60代以上の性年代別 20名 計 200名） （中野市訪問未経験者 20代～60代以上の性年代別 80名 計 800名） （スクリーニング調査 中野市訪問経験者 200 サンプル抽出するために予備的な調査の実施）
■ 経済波及効果分析	市名変更による観光に対する来訪意向への効果、市名変更による首都圏での農産物等の売上に与える影響から中野市の産業連関表をもとに、経済波及効果を調査。
■ 調査期間	令和元年 11月 26日～12月 2日

中野市から信州中野市へ市名変更することによってどのような効果が得られるのか、次の2つの側面を調査、中野市の産業連関表に投入し経済波及効果を推計する。

①市名変更による観光に対する来訪意向への効果

- ・これまで中野市を訪れたことのない首都圏の大多数の人をどれだけ呼び込め、市内の飲食、宿泊、施設利用等にどれほどの経済波及効果をおよぼすか。

②市名変更による首都圏での農産物等の売上に与える影響

- ・首都圏での農産物等の購入動機にどのくらい影響をもたらし、市内の産業に経済波及効果をもたらすか。

【調査方法】

中野市の大商圏である首都圏1都3県の居住者から中野市訪問経験者 200 サンプルと未経験者 800 サンプルを対象としたインターネットアンケート調査により、中野市へのイメージ、中野市への訪問頻度、目的、宿泊の有無等、中野市の地域ブランド購入経験、購入額、市名変更した場合の行動変化などを調査する。

これらの結果をもとに、中野市への「来訪経験者」と「来訪未経験者」が市名変更によって「観光に対する来訪時の消費（増加）額」と「首都圏での農産物等の地域ブランド品の購入消費（増加）額」を算出し、中野市の産業連関表を用いて市名変更による経済波及効果を分析する。

#### 【調査結果】

資料5「中野市市名変更に伴う影響分析調査（経済波及効果）」

「中野市の市名変更後における経済波及効果額（中野市訪問による経済波及効果と日常生活での地域ブランド購入による経済波及効果の合計値）」

中野市の市名変更後における推計消費純増額「16億1,700万円」を中野市産業連関表に用いた結果、第一次間接効果として「1億3,500万円」、第二次間接効果として「2,000万円」の経済効果が生まれ、合計「17億7,200万円」が市名変更後の経済効果として見込まれる。

また、就業者誘発数は120人という結果となった。

※経済波及効果が起こるまでの所要時間は明確ではない。

経済波及効果額は、計算によって生じた理論的な可能性を示すものであることや、効果の期間が決まっているわけではないこと、市名変更と合わせて展開するシティプロモーションや観光施策、さらに情報発信等を強かに仕掛けるなどといった、より中長期的な視点でのまちづくりをより深める策を講じた上での数値であり、市名変更だけを問題にしているのではないことを念頭に置く必要があります。